礼拝説教（2026 年 1 月 11 日）

説教者：中村信哉

聖書はあなたに知恵を与える

テモテへの手紙第二 3 章 14-17 節

はじめに

私たちの教会では、毎日聖書を読み、祈ることを勧めています。毎日聖書を読み、祈ることを、「デボーション」と呼びます。もともとは「献身」（神様に自分自身を献げること）を意味しますが、教会では次第に、毎日聖書を読み、祈り、神様と交わることを意味するようになりました。

私たちはそもそもなぜ聖書を読まなければならないのでしょうか？またそもそも聖書とはどんな書物なのでしょうか？私たちは、聖書をただ読まなければならないから読むのではなく、聖書は私たちの人生にとって必要なものだからこそ読むのです。

1. 聖書は神の霊感による（聖書と三位一体の神）

16 節に**「聖書はすべて神の霊感によるもので」**あると書かれています。聖書はただの書物ではありません。聖書は神様によって書かれた書物です。具体的には、聖書は、聖霊なる神様によって書かれた書物です。聖書は直接的には預言者や使徒たちが書いたのですが、聖霊が預言者や使徒たちを用いて書かれた書物なのです。Ⅰペテロ 2：21 には、こうあります。**「預言は、決して人間の意志によってもたらされたものではなく、聖霊に動かされた人たちが神から受けて語ったものです」**。聖書は、神様によって書かれた書物であるがゆえに「神の言葉」です。神様は、聖書を通して私たちに語りかけているのです。

聖書は、聖霊なる神様によって書かれた書物であるがゆえに、聖霊の助けがなければ決して理解することはできません。どんなに勉強しても、どんなに頭がよくても、聖霊が私たちの心に働いてくださらなければ、聖書が教えている本当の意味を理解することはできません。私たちは聖書を読む時には、聖霊の助けを祈り求めなければなりません。聖書の言葉が本当の意味でよく分かるように、神様が私たちに今日も語りかけてくださるように祈り求めなければなりません。

では、聖書はおもに何を教えているのでしょうか？ルカ 24：27 には、こうあります。**「それからイエスは、モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた」**。聖書全体は、イエス様について教えています。旧約聖書も新約聖書も、おもに教えていることはイエス様についてであり、イエス様による私たちの救いについて教えているのです。

神様は、聖霊を通して聖書を書かれ、私たちにイエス様について、イエス様による救いについて語りかけておられるのです。聖書は、三位一体の神様の御業によるものです。父なる

神様が、聖霊を通して、イエス様について語る書物、それが聖書です。

2. 聖書は信仰による救いを受けさせる（聖書と救い）

15 節に**「聖書はあなたに知恵を与えて、キリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます」**とあります。聖書は私たちに信仰を与え、私たちを救いに導きます。

聖書はまず、私たち人間が救われなければならないことを教えます。私たち人間は神様に造られましたが、アダムとエバが禁断の木の実を食べて神様に背いた時から、神様との関係を失い、生まれながらに罪の性質を持つようになりました。これが「原罪」と呼ばれるものです。その結果、私たち人間は、日々神様の命令に背くようになり、あらゆる苦しみや悲しみ、孤独と争い、死そのものと永遠の地獄の刑罰を自らの身に招くようになったのです。

私たち人間は誰でも、神様という存在を漠然と信じています。私たちの心に善悪を判断する良心があることや、大自然や歴史の出来事を観察する時、私たち人間を超えた大きな存在がいるのではないかと多くの人が認めます。しかし、なぜ人間に罪の性質があるのか、なぜ苦しみや悲しみがあるのか、なぜ孤独や争いがあるのか、なぜ死ななければならないのか、人生の目的は何か、それらを誰も知りません。

それらは、聖書を通してしか知ることはできません。私たち人間は誰でも、神様という存在を漠然と信じています。しかし、どうしたら救われるのかという問題は、聖書を通してしか知ることはできないのです。

聖書は、私たちを救う書物です。私たちに罪を自覚させ、私たちにイエス様に対する信仰を与え、私たちと神様との関係を回復させ、私たちを神様の怒りと永遠の地獄の刑罰から救ってくれる書物なのです。

3. 聖書は信仰の成長のために有益（聖書と成長）

聖書は、私たちに信仰を与え、私たちに救いを与える書物です。しかしそれだけなく、私たちの信仰を生涯の終わりまで支え、養い、成長させてくれる書物でもあるのです。

16 節にはこうあります。**「聖書はすべて神の霊感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です」**。聖書は、私たちの信仰生活を導く書物です。私たちは聖書を通して、神様の御心を深く知っていきます。イエス様を信じる私たちが、どのように歩めばよいのか、どのような歩みが神様に喜ばれるのかを教えてくれます。

イエス様を信じる私たちクリスチャンの目標は、イエス様に似た者となることです。聖書は、私たちにイエス様の姿を示し、私たちを変え、私たちをイエス様に似た者へと成長させてくれるのです。

4. 聖書はすべての良い働きに整える（聖書と人生）

しかし聖書は、私たちを救い、私たちの信仰生活を導くだけの書物ではありません。私たちに知恵を与えて、私たちの社会生活をも導いてくれる書物でもあるのです。

17 節にはこうあります。**「神の人がすべての良い働きにふさわしく、十分に整えられた者となるためです」**。聖書は、イエス様を信じる私たちを、すべての働きにふさわしく整える書物です。「すべての働き」という言葉は、仕事とか任務とも訳せる言葉です。聖書は、信仰のことや教会のことだけに有益な書物なのではありません。聖書は、仕事や家庭などの社会生活において私たちが整えられた者となるために有益な書物、人生全体に有益な書物なのです。

聖書全体は、私たちの人生のおもな目的は、神様の栄光を現わし、神様を喜ぶ（enjoy）ことだと教えています。私たちが家庭や仕事や教会でどのように神様の栄光を現わせばよいのか、どのように神様を喜び、楽しめばよいのかを教えてくれるのが聖書です。自分の人生で、どのように神様の栄光を現わし、神様を喜び楽しめばよいのかを教えてくれるのが聖書なのです。

おわりに

聖書は、三位一体の神様の御業によって書かれた「神のことば」です。神様は、聖書を通して今も私たちに語りかけておられます。聖書は、私たちに信仰を与え、私たちを神様の怒りと永遠の地獄の刑罰から救います。また聖書は、私たちの信仰生活を生涯の終わりまで支え、導き、イエス様に似た者にまで成長させます。また聖書は、私たちの信仰生活だけでなく、私たちの社会生活をも導き、私たちが社会で神様の栄光を現わし、神様を喜び楽しむ者へと整えてくれます。

聖書は素晴らしい書物です。読まなければならないから読むのではなく、私たちの人生にとって必要であり、有益だからこそ読むのです。

ではどのように聖書を読んだらよいのでしょうか。聖書は、①自分ひとりで、②家族で、③教会で読みましょう。自分ひとりで、または家族で読む場合は、毎日読みましょう。そのために週報に聖書日課が載せてあります。5 年で聖書全体を読める聖書日課となっています。教会の礼拝や聖書を読む会で聖書を読むことも大切です。自分ひとりで聖書を読むだけでは解釈や適用に偏りが出る場合があるので、牧師による説教や学びも大切です。

聖書を読む時は、まず聖霊の助けを求めて祈りましょう。聖霊が聖書を理解させてくださるように、今日も神様が語りかけてくださるように。

次に聖書をゆっくり読みましょう。一度読んで終わりではなく、読み返して、この個所から神様について教えられることは何か、神様は私たちに何を求めておられるかを黙想しましょう。

最後に、教えられた聖書の言葉を実行できるように、今日一日の祝福のために、家族のために、自分のために、教会のために祈って終わりましょう。

ぜひ毎日聖書を読み、祈ることによって神様との交わりを持ちましょう。今年からデボーションを始めましょう。神様の言葉である聖書は、必ずあなたを救い、あなたの信仰と人生を導いてくれます。

天におられる私たちの父なる神様。

私たち人間は生まれながらに、人間の力を越えた大きな存在、神的な存在がいることを感じています。しかし、その思いは罪で歪められ、生まれながらの人間は誰でも、自分の力で真の神様を見出すことはできません。私たちは、聖書がなければ、真の神様を知ることはできません。また自分には罪があり、救われなければならない存在であることも知ることはできません。あなたは、聖霊を通して、聖書を私たちに与えてくださいました。それによって、真の神様について、自分とは何者であるか、救われるためにはどうしたらよいか、どのように人生を歩めばよいのかを教えてくださいました。

どうか私たちが、聖書を重んじて、熱心に読むことができますように。そして、神様のことばによって、人生を導かれていきますように。

この祈りを、私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。